

西柴防災ニュース

西柴団地自治会防災部

横浜市金沢区西柴四丁目1-11

“西柴団地自治会の防災訓練” 特集

西柴団地自治会では全戸にお配りしている「地震のときの避難マニュアル」を基本行動とする訓練を毎年実施しています。今年度は10月20日に実施しましたのでご紹介いたします。

この機会に「地震のときの避難マニュアル」をもう一度見てください。

●今年度の訓練のテーマ

1. 「バンダナ・パトロール隊（地域住民）」と「拠点運営委員」との連携をうまくおこなう。
2. 避難所運営を、避難してきた人と「拠点運営委員会（以下「運営委員」という）」と一緒におこなう。

●拠点訓練での実施事項

1. 運営委員と避難者が区別できるように運営委員はジャケットを着用する。
2. 参加者に訓練用に負傷者等の役割をお願いして対応方法を訓練。
3. 体育館内の避難所つくりを避難者で行う。
4. 水の補給の重要性を体験するための運搬訓練。
5. ペット同伴者の対応訓練。

●バンダナ・パトロールの活動

バンダナ・パトロールはブロックごとに有志の方が取り組んでいる活動で、今回で5年目になりました、1回目は自治会・防災部門が主導しましたが、訓練を重ねるごとに各ブロックが独自の取り組みを考えて実施しています。各ブロックの取り組みについては全ブロックの打ち合わせの会議で紹介をしています

＜独自の取り組み紹介＞

- ブロック独自の実施案内用チラシを作り、各家庭に配っている。
- パトロール員を増やす取り組みを行った。
- パトロール順路を図にして作成している。
- パトロール時に特に安否確認が必要な家が判るようにしている。
- 行動しているブロックが判るように看板を作った。
- 「助けてカード」提出された家を訪問しました。
- 各家の防災用品備蓄状況を訓練に併せてアンケートで集め、結果を各家にレポートで報告した。

この中から、第9ブロックが実施した「防災用品備蓄調査報告」を第9ブロックの許可をもらいましたので皆様に4面で紹介します。

また、自助として用意をする物については「西柴防災ニュース第31号」をご覧ください

写真で見る西柴小地域防災拠点訓練

○ 避難者受付



まずは受付用紙に記入です



避難者受付の難しさを体験しました



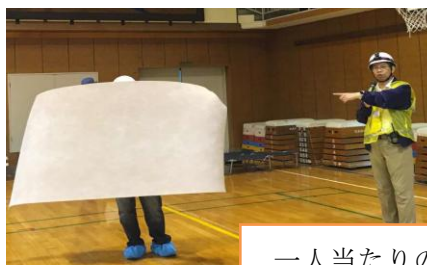
○ 体育館での避難所づくり



段ボールベッド・簡易ベッド
寝心地は？壊れないかしら？



避難場所での
環境が実感で
きました。



一人当たりのスペースです

○ 水運搬訓練



みんなで協力して



柔らかい袋は
運びにくい・・・



ヨイショっと

水を運ぶ大変さ
がわかりました

西柴小学校地域防災拠点訓練
西柴団地自治会関係参加者の推移

年	2015	2016	2017	2018	2019
参加者(人)	303	286	135	165	137

今回実施した参加者からのアンケート内容を3面にそのまま掲載します。

訓練参加者の声と成果について

訓練全般について

よ か っ た 点	・従来と異なる訓練があり有益だった。・毎年新しい企画で有難い。・いつもの消火訓練などより一歩進んでより実践的で有意義な感じがした。・十字の通路マット敷き、段ボールベッドの組立て、水運搬りレーは良かった。・参加型にして正解。・実際に起こった時にどうすべきかなど具体的な訓練ができてよかった。・避難所に行けば何とかなるとが自分たちで日頃思っていたから用意しておくことが大切だと思った。・避難者は指示待ちではなく自分は何ができるかを考えなければならないと感じた。・訓練は分担してうまく運営していたと思う。
よ く な か っ た 点	・全体の流れがよくわからない。・運営に携わったが流れがよくわからなかった。一般の方は理解できたか不安。・今まで何回か訓練に参加したことがあるが、今回の訓練が一番よくわからない！・訓練の内容が事前に知らされていないので進行状況がわからない。・内容を事前に参加予定者に知らせて欲しい。・運営委員の人がはっきりと指示をしないと周りは動けないと思った。 ・設営側の司会のサポートを余った係の人ができるように組織だった動きができていとなおよかった。・体験型訓練(ベッド組立て等)の場合、少人数グループ別に行う方が良い。今回は後ろの方の人が参加できなかった。せめて 360 度に見えるように円状に広がるなど工夫して欲しい。 ・住民数に比べ体育館だけでは収容者数食料等の蓄え全てが無理と感じた。・避難者としての自覚がなく参加している人が多かった気がする。 ・参加者が少ない。・子供をもっと参加させる。
成 果	○訓練に参加して、避難所での生活の一端を知ることができたこと。 ○日頃からの備えの必要性を実感する人が増えつつあること。

避難所の備蓄について

- 【概況】: 避難所の食料、飲料水の備蓄については、現状のままでよい(仕方がない)とする声が 7 件、もう少し増やしてほしいとする声が 5 件と拮抗するが、圧倒的に多かったのは、各家庭での 3 日～7 日程度の備蓄の重要性を強調する声であった(44 件)。このうち 5 件は、自ら避難所へ避難する場合は、自宅から食料等を持参すると宣言している。
- 【成果】: 「拠点備蓄量の限界を知り、各家庭での備蓄の必要性を改めて認識できた。」とする声が多かったこと。

避難場所兼避難所(以下「避難所」という)について

- 【概況】: 現状のままで良いとする声が 11 件あったが、次の通り避難所が抱える問題点が多数指摘された。
- 「・避難スペースの中核となる体育館が 3 階で高齢者等には階段が厳しい(8 件)。・さらに狭すぎる(7 件)。・ぜひ 1～2 階の教室を使いたい(5 件)。・高齢者等のために、どの程度避難スペースに使えるのかわからないので、対応策を考えられない(2件)。・避難者それぞれが居心地悪い思いをしないために、適切な区分けが必要だが、スペースが足りるかどうか確認できなかった(2件)。崖崩れが心配(2件)」等。
- 【成果】: 避難者も避難所の設置や運営に積極的に加わらなければならないとの思いが深まりつつあること。

「9 ブロックバンダナパトロール『防災用品備蓄調査』のご報告」の紹介

第9ブロックのバンダナ・パトロール班長さん達が同ブロック自治会員の皆様に報告した資料から防災部が抜粋した記事です、自宅の備蓄と比べてください。（文責：防災部長 小櫃）

9 ブロック自治会員の皆様

10月20日に実施したバンダナパトロールおよび防災用品備蓄調査にご協力をいただきありがとうございました。今回の調査（回収数 125 世帯；回収率 67%）では、2015 年に比べ皆様の災害への備えが一段と進んでいることが確認されました。

◆装備・備蓄率が高まったもの（今年%←2015 年%）

感震ブレーカー（47%←29%） 給水用ポリタンク（73%←56%）
非常用トイレセット（51%←38%） 消火器（75%←68%）
携帯ラジオ（94%←87%）

◆装備・備蓄率が極めて高いもの（今年%←2015 年%）

予備の電池（100%←94%） 懐中電灯（99%←99%）
非常用飲料水（96%←93%） 非常用食料品（88%←87%）

◆装備・備蓄率が比較的低いもの（今年%←2015 年%）

ヘルメット（45%←41%） ホイッスル（51%←未調査）
家具転倒防止装置（54%←未調査）

◆アンケート結果の要点（感震ブレーカー）

災害への備えの中でも装備・備蓄率が最も高まったのは感震ブレーカーです。設置した世帯は前回調査より 18%も増えましたが、まだ半数の世帯（47%）にとどまっています。

感震ブレーカーは、震災後に電気が送られてくることによって生じる火災（再送電火災）を防ぐ有効な装置とされています。半数の世帯だけではなく地域全体が装備することによって震災後の火災の発生を抑えることができます。

※ 小櫃防災部長のコメント：

第9ブロックは 2015 年 10 月に、バンパト活動の一環として「防災用品備蓄調査」を実施しました。これに倣うようにして 2016 年 3 月に防災担当部が、第 1～第 8 ブロックを対象に同調査を行った経緯があります。

西柴団地自治会では、防災の取り組みとして「自助」（自分を守り、他人に迷惑を掛けない）に力を入れ進めてきました。特に「消火器」、「感震ブレーカー」の斡旋を進めてきましたが、今回の調査で備蓄率を数値で知ることが出来た事と、防災訓練の日に併せて自宅の備蓄を見直す機会にもなった取り組みは「自助」を進める参考になりました。皆様のご協力に感謝します。